

国際博覧会検討委員会 150608@大阪府庁

有識者プレゼンテーション

国立民族学博物館／吹田市立博物館 中牧弘允

1. 今、なぜ万博なのか

(ア)開催国としての日本

- ① 国威発揚の万博から問題解決の万博へ
- ② 科学技術の謳歌から精神文化の復権へ
- ③ 経済発展の恩恵から格差是正の対策へ
- ④ 成熟した社会にとっての万博の意義

(イ)開催地としての大阪（なぜ、大阪なのか）

- ① 国威発揚・科学振興、経済発展の大阪万博が残した課題は「調和」
- ② 「福神」としての大阪万博は地域振興の「引き金」ではなく「追い風」→1970年大阪万博の「式年」化
- ③ 関西文化学術研究都市（けいはんな）の見なおし
- ④ 国策としての文化首都（新総国分寺構想）につながる万博
- ⑤ 国内における地域格差の是正

(ウ)参加国としての意義

- ① アメリカの後退、中国の台頭
- ② ヨーロッパはどこに意義を見出しているか

2. テーマ案

(ア)長寿、健康、快適（福神、礼節、心の足し、文化）→プラス思考

(イ)災害、紛争、格差（貧乏神、衣食、腹の足し、経済）→マイナスの回復

(ウ)たとえば、「人類の長寿と調和」